

麗気烈風

令和4年3月7日(月)

文責 村田和人

～ 教育は「共育」「協育」「強育」で ～

～ 【 感動の卒業式でした 】 ～

先週の金曜日、本校第75回卒業式を無事に挙行できました。

コロナに始まりコロナに終わった学年でした。体育大会は無観客の短縮バージョン、修学旅行は中止、しかしいつも笑顔を忘れず、どこまでも明るかった3年生です。せめて卒業式くらいは、との願いが届いたのか、すばらしい晴天に恵まれて挙行することができました。

今年の卒業式も、コロナ感染防止のために、ご来賓をお招きできず、在校生も参加できず、保護者は各ご家庭2名までの出席制限、国歌、校歌は伴奏のみ、卒業生による構成詩、合唱もなし。制約だらけの卒業式でした。

中学校生活最大の行事であり、同時に最後の授業参観でもある卒業式がこれじゃ、卒業生も今一つやる気が出ないだろうな、と正直思っていました。

しかし全くの杞憂に終わりました。卒業生を甘く見ていました。



卒業式のハイライト、卒業証書授与。それまでの練習の成果が見事に発揮されました。ステージ脇の階段を上がり、保護者席の方を向き、直立不動の姿勢で氏名点呼を待ちます。前の生徒の証書授与が終わり、自分の番が来ます。

担任の先生「〇〇〇〇！」生徒「はい！」体育館フロアに響き渡る、すばらしい返事をしてくれた生徒が何人もいました。

卒業証書を授与しながら、私も子ども達のすばらしい返事を間近で聞くことができ、深く感動しました。こうした感動を味わえる教師という仕事は何て贅沢な仕事だろう、と思いました。

お父さん、お母さんも子どもさんが生まれてこの方15年間、いろいろなご苦労があったかもしれませんが、この一瞬で報われるような気がしました。

もうこの通信を読むことはありませんが、3年生の皆さん、すばらしい卒業式をありがとうございました。君たちが創りあげた伝統は、後輩達が必ず引き継ぎ、明日の鹿南中をつくっていくことでしょう。

改めて、ご卒業、おめでとうございます。本当にあなた方はすばらしい学年でした。

～ 【 「ありがとう」の一言を 】 ～

卒業証書授与が終わり、校長式辞、在校生代表(生徒会長・高山さん)による送辞、卒業生代表(元生徒会長・永原君)による答辞がありました。高山さんは卒業生や保護者を前に、堂々と、そして厳粛に、心を込めた送辞を読み上げました。

永原君は・・・壇上に立ち、答辞の原稿を開いた途端、3年間の数えきれない思い出になったのでしょ



うでしょう。お別れの言葉より先にとめどなく涙が流れてきました。彼にとって鹿南中時代は宝物だったので

す。きっと。鹿南中を代表する2人の生徒による送辞、答辞。その中で最も多く遣われた言葉は間違いなく「ありがとう」です。

自分が感謝すべき存在は、過去を振り返った時に見えてくるものです。

反発し、「うるさい」「あっち行って。」としか言わなかったけど、ご飯をつくり、洗濯物を畳み、スマホ代を出してくれるお父さん、お母さん。自分は返事しなくても、毎日欠かさず「おはよう。」「さよなら。」「大丈夫?」「勉強、いっしょにしようか。」と声をかけてくれる先生、けんかした時は「こんな奴、一生、口きかない!」と誓うほど腹が立つけど、次の日は何もなかったかのように「おはよう。」「おー。」と言葉を交わせる友達。

その気になって探せば「ありがとう。」と言える、いや言うべき存在はたくさんいるはず



1, 2年生はもうすぐクラス替え、進級を迎えます。

クラスが別々になる前に、「ありがとう」と言える人をたくさん見つけ、直接「ありがとう」と言えたらいいですね。

もちろん、ご家族、お父さん、お母さんにも忘れずに。